

平成 29 年度 施設の自己評価結果報告書

学校法人蒲原学園
幼保連携型認定こども園
蒲原学園幼稚園

1. 教育・保育方針

乳児期

信頼できる大人と環境に囲まれ、穏やかで安心感にあふれた生活をおくる。その安心感の中で丁寧に子どもと関わり、基本的な生活習慣が身につくようにする。

幼児期

親・先生・友達に囲まれ、良い環境の中でたくさん遊び、本物の体験をする。それらの経験を通して、何事にも積極的に取り組んでいける力をはぐくむ。

2. 重点目標及び計画

- ・職員の資質向上に努める
- ・職員の幼保連携体制を構築する
- ・職員のワークライフバランスを向上させる

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組み内容及び評価理由
職員の資質向上	B	外部研修への積極的参加することができた。研修参加者は他の職員へのフィードバックを行った。
幼保連携体制の構築	B	幼稚園出身の職員と保育園出身の職員の配置転換と意見交換を積極的に行い、意見交換することができた。
ワークライフバランスの向上	B	パート職員の雇用により、代休や有休の取得をスムーズに行うことができた。記録関係の効率化のためのシステム導入は今後の課題として残った。

※評価基準 A：充分達成 B：達成 C：成果が不十分 D：取組が不十分

4. 今後取り組むべき課題

今後は新卒採用の職員もあり、園内研修を充実させ、職員が共通認識を持って保育業務に当たれるように工夫する。全体的な質の向上を図っていく。乳児保育の経験豊富な職員を幼児教育の場に配置し、指導教諭とチームを組むことで、効率の良いスキルアップ態勢を構築する。

産休職員や積極的な有給休暇取得のために、乳児・幼児の垣根を超えた職員配置をする。それによって教育・保育の質が落ちないような職員教育を行う必要がある。

処遇改善制度を積極的に活用し、ICT化を適宜行っていく事で、職員のワークライフバランスを向上させ、職員の勤労意欲を高め、保育環境の向上に努める。

5. 来年度に向けて

複数の0歳児、アレルギー児の入園が見込まれているため、より安全を意識した保育環境の設定を行いたい。職員全員が危機管理の意識を高く持ち、予想される様々な事象に対応できる事前準備を行っておく必要がある。

1歳児の入園を待っていただいているケースが散見されている為、職員の募集を続け、無理のない範囲で受入れ人数を増やしていく。

幼児の14時半以降の延長保育を利用する人数が増えているため、サポートスタッフの導入を検討する。お迎え時間の記録システムを導入するなど、効率化を図ることも必要である。

6. 学校関係者からの評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査により、適性に運営されていると認められた。